

平成 16 年度 第 2 回 人工海浜専門部会

日時：平成 17 年 2 月 17 日（木） 13：30～16：30

場所：沖縄県市町村職員共済組合 自治会館 宿泊部 10 階 第 2 会議室

出席者：入江座長、新城委員、仲宗根委員、栗山委員（欠席：名嘉座委員）

< 議事概要 >

前回専門部会、委員会における指摘事項とその対応について

- ・ 本人工海浜にあたっては、安定している人工海浜の例として、ブセナの海岸が参考になる。

海浜安定の検討について

- ・ 海浜安定化方策 A(連続突堤案)及び B(離島案)の両案について、砂の流出が無いことが確認され、様々な観点から意見が交わされた。
- ・ 開放的な視野の確保や汀線形状の美しさ等の観点からは、A 案が望ましいとの意見があった。一方で、離れ島案についても、レジャー利用することも考えられることから、今後環境利用学習での専門家の意見や一般利用者の意見も聞きながら、両案を収れんしていくこととした。

人工海浜の基本計画（現状までの検討結果、今後の課題、植栽計画）について

- ・ オカヤドカリが生息するためには、海水ばかりではなく、淡水による湿り気が必要である。
- ・ 植栽地の湿り気や日よけになるような石積み等を配慮することによって、オカヤドカリに必要な生息の場を確保することができる。
- ・ 自然海岸の植生を生かした植栽計画が基本である。人の利用するスペースにおいても、自然海岸の植生を基本として、植栽する植物種を選定する必要がある。
- ・ 今回の検討を踏まえて、安定海浜形状におけるゾーニング図をつくるべきである。